

生活障害がある子どもたちへの理解と関わり

*当財団(講座)は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、(公財)日本臨床心理士資格認定協会より「短期研修機会(ワークショップ)」の承認を受けております。 <承認期間:2017年7月1日~2022年6月30日 承認番号:W29111>

期 日 : 2022年6月15日(水)、18日(土)のどちらかのご希望日

※ご希望日を必ず通信欄にご記入・ご入力ください

受講対象 : 教育・医療・相談・福祉・保育の各機関・現場で、子どもに関わる専門家および興味のある方々

申込期限 : 2022年6月7日(火)

(お申込みは先着順となりますが、期限前に募集を終了する場合がございます)

受講料 : 7,500円(税込)

配信方法 : 『Cisco Webex』を使用し、配信 ※事前承認制です

本講座は事前にビデオ収録し、当日オンラインで配信する講座です

主 催 : 公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021

東京都豊島区高田3-19-10

★★★★ 企画講師 ★★★★★

こころとそだちのクリニック むすびめ 院長 田中 康雄 先生

今回は、「未完」な話をし、参加される方々と一緒に考えたいと思います。

僕は、精神科臨床で出会う子どもたちに感じる生活の営みがたさがどこに起因し、どのような関わりを求めているのか、日々理解しようと努めつつ、常に戸惑いを感じています。おそらく彼らにある生活障害は、個々にある認知、行動、対人関係の特性や、これまでのそだちの歴史と、日々の環境がもつれ合って生じていると思うのです。もつれるとは、絡み合っただけで解けにくいはずですが、「発達障害」とか「アタッチメント障害」と名付けてしまうと、ほどけたような錯覚をしてしまうのです。でも、僕は、結果もつれた様子をきちんと診ることを怠ってしまったのではないかと、彼らと家族の生活の痛みに、僕はきちんと向き合えていないのではないかと、振り返るのです。もちろん他人の思いや日々の営みに近づくこと、重なり合うことは、とても難しいと痛感しています。そんな反省を含めて、現時点での僕の理解と戸惑いについて話をしたいと思うのです。まとまらない未完の話です。興味のある方に聞いていただき、是非意見をいただければと思います。

【田中 康雄】

【プログラム】

	時 間	テ ー マ
各 日	10:50頃~	オンライン講座の事前案内
	11:00~12:05	講義 1 <オンライン講座> 「生活障害」について
	12:05~13:00	~ 休憩 ~
	13:00~14:05	講義 2 <オンライン講座> 子どもたちの【症状】について
	14:15~15:30	講義 3 <オンライン講座> 子どもたちと関わる
	15:40~16:50	講義 4 <オンライン講座> 保護者の思いに近づく

※時間割が変更となっております。予めご了承ください。